

## 平成31年度 入学式 学長式辞

平成31年度 公立大学法人 滋賀県立大学、並びに、大学院の入学式を挙行し、学部入学生、編入学生、および、大学院入学生を迎えることは、本学にとって、誠に大きな慶びです。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

また、新入生をこれまで支えてこられた保護者やご家族の皆さんに、滋賀県立大学を代表して、心よりお慶び申し上げます。

新入生の皆さんがこの良き日を迎えることができたのは、皆さんのこれまでの努力は勿論ですが、周りで支えてこられた保護者、ご家族やお世話になった方々の協力があったことも忘れないで頂きたいと思います。

入学に際し、大学での4年間の学生生活を思い描いて、希望に胸が一杯だと思っています。本学には、琵琶湖を擁する滋賀の地をキャンパスにして、フィールドワークや実験・実習をはじめ、地域での学びなど、いろいろな学びの場が提供されています。このような本学ならではの学びの場を活用して、みずから選んだ専門分野を極めるとともに、幅広い教養を積んで、思う存分、みずからを磨いてください。

そのために、これからの学生生活の4年間、心がけて頂きたい、二つの「じりつ」の言葉を送りたいと思います。

一つ目の「じりつ」は、自分で立つと書く「自立」です。広辞苑には、「他の援助や支配を受けず、自分の力で判断したり身を立てたりすること。ひとりだち。」と説明されています。自分自身の力で判断するには、その前提となる判断基準が必要です。この基準をみずから決める見識が必要です。是非、この4年間で見識を深めて力を磨いてください。

二つ目の「じりつ」は、自分を律すると書く「自律」です。広辞苑には、「自分の行為を主体的に規制すること。外部からの支配や制御から脱して、自身の立てた規範に従って行動すること。」と説明されています。自分自身のあるべき姿を考えて、みずからの行動を規制して、責任を持つようにしてください。

これら二つの「じりつ」を実現するためには、事実を知り、物事の本質を見抜くことが必要です。そして、事実と本質から人間としてあるべき姿を考え続けることが重要です。それを考えるには、いろいろな情報を集めることが必要不可欠となります。そのために、新聞や書籍を読むことを心がけてください。SNSなどインターネットからの情報は、簡単にアクセスできますが、必ずしも根拠のある情報とは限りません。自分自身の目で確かめ見極める力を育ててください。

大学で新しくできる友人と議論し、切磋琢磨することにより、充実した学生生活を送られることを願っています。

滋賀県立大学 学長 廣川能嗣